



Title	ねずみについて
Author(s)	白石, 善樹
Citation	makoto. 1980, 32, p. 5-6
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/86095
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

ねずみについて

大阪府環境衛生課
環境衛生第一係長

白石善樹

ねずみによる被害は伝染病や食中毒の媒介による衛生的な被害はもとより、農作物、家具、衣料品等に及ぼす経済的な損害も計り知れないものがあります。また、ねずみによる咬害としてはガス漏れによる爆発など人身事故、漏電による火災事故並びにポイント故障による列車の運行障害事故等があり、更にシヨッキングな事件としては乳幼児の死亡事件も記憶に新しいところです。

駆除にあたっては、まず、ねずみの種類を確認すること、つぎに習性、行動等を考慮して常に科学的基盤にたつた駆除法を用いなければなりません。

このように人間生活を営む上において多方面にわたり被害を及ぼすねずみを駆除するため大阪府といたしましては伝染病予防法、建築物の衛生的環境の確保に関する法律、食品衛生法等関係法律にもつき指導しております。また毎年、冬期の二カ月間（一二月）を総合ねずみ駆除運動期間と定め、保健所、市町村、地域組織等関係団体と一体となって駆除運動を展開しております。

ねずみは哺乳類、げっ歯目、ねずみ科の動物で我国には約一四種生息しているといわれてお

ります。この中でドブネズミ、クマネズミ、ハツカネズミの三種が家住性のねずみとして衛生上問題であり、これらはいずれも繁殖力、適応力にすぐれており、知能も比較的高いと言われております。

駆除にあたっては、まず、ねずみの種類を確認すること、つぎに習性、行動等を考慮して常に科学的基盤にたつた駆除法を用いなければなりません。

ついては家住性ねずみ三種について、その害、特徴、習性、駆除法等について述べることにいたします。

1. ねずみによる害
(1)媒介される疾病
ねずみが媒体となって人体に感染される病気は約二五種類あると言われており、その主なものをあげると 表1

病名	病原体	感染経路
食中毒	サルモネラ菌	糞・尿
ウイルス病	レプトスピラ	尿
ペスト	ペスト菌	尿
ツツガムシ病	リケチヤ	尿
広東鼠血吸虫	血吸虫	糞・尿

大阪等の外国航路の港を中心として一時的に見い出されることがある。

(3)その他の被害
ア農林畜産上の被害
イ食品、商品等の食害
ウ家具、家屋、衣類等の物損

エ乳幼児等の殺傷事件
オ電信、電話、通信ケーブル、コンピュータ等の断線や接触等による漏電による被害

カガス器具、ガス管等の咬傷によるガスもれ爆発事故。

2. 家住性ねずみ三種の特徴

種類	外見特徴	体長・体重	主な生活場所	行動
ドブネズミ	耳は大きく大きく前に張り出し、目より長い。尾は黒い。体は黒い。	体長 18~22cm 体重 200g	住宅性のねずみで、天井裏、押入れ、床下、壁の隙間などに棲む。糞は黒い。	配電線、水道、ガス管を咬破し、電線、ロープ等も咬む。
ハツカネズミ	耳は大きく大きく前に張り出し、目より長い。尾は黒い。体は黒い。	体長 22~25cm 体重 300g	床下、下駄、この隙間に棲む。糞は黒い。	ト水、側溝等を汚染して平面的に活動が多い。床下がうまうま100m以上歩く。
クマネズミ	耳は大きく大きく前に張り出し、目より長い。尾は黒い。体は黒い。	体長 6~10cm 体重 20g	天井裏、押入れ、タタミの上等に棲む。糞は黒い。	糞は丸いような糞をする。

3. 家住性ねずみの習性

ねずみ算によれば一つがいのねずみが一年後には九四三四匹に殖え、三年後には約四億五千万匹になるそうです。

(2)ねずみ駆除作戦を展開するにあたってはまず敵を知りという意味で、彼らの生態、行動様式を知り、これを逆に利用することが大切です。



われていきます。種によって幾分違いがありますが、ねずみの一生を図にしてみると左図のようになります。

種別	寿命	繁殖可能期間	妊娠期間	年間分娩回数	1回の産子数
ドブネズミ	約3年	生後3ヵ月~2年	約21日	5~6回	約6匹
ハツカネズミ	約1年	生後約35日	17~20日	6~10回	約6匹

自然界では右表のように長生きではなく、一年以上生きるのは約5%程度だろうとい

一般的にはドブネズミは床下、台所の下水溝などの水分の多い所、クマネズミは天井裏や壁の間など、おおむね高所にその住み家を持っている。また住み分けとは別に生活圏を持っており、巢を中心として周辺の一定の地域になわ張りを作り、他のねずみの侵入を恐れ防止する。

イ.異物反応と環境順応性

ねずみはいつもと異なった状態に対し強く警戒心を示すが時が経つに従って、新しい環境に馴れる。

餌、餌場等に対しても起るので、食べ馴れている餌を食べ馴れている場所に置くのが原則であるが、それを替える場合は少なくとも三日間以上同じように続けることが大切である。

ウ.夜間活動性 一日の中で最も活動の盛んな時間は日没後、或いは消灯後数時間で、夜明け前にも再び活動する。餌の仕かけ時期は夕方仕かけて朝調べるのが良い。

エ.隅行性 ねずみは夜間活動するから、さぞ眼が良いのだろうと考えがちだが、そうではない。だから夜暗い所を走る時は壁やパイプや、家具、調度品に体をこすりつけ移動する。毎日同じ場所を通るので体の汚れや油がこすりつけられて黒くよごれたり、黒光りするようになる。これをラット・サインと称し、専門家は駆除の手がかりとする。

捕そ器、毒餌の仕かけ場所としては、この通路から少し離して置くことが大切である。
ホ.食性 ねずみは非常に貪食で、一日に体重の4/5

1/3の餌をとると言われている。だから飢餓に対しても抵抗力が弱い。一般に植物質のものを好むが、非常に雑食性である。

三種のねずみが共通して好むものは穀類、芋類で種子類も好物である。

4.

ねずみの駆除

ねずみの駆除法には、次の四つの方法があり、一般には化学的駆除法(殺そ剤による駆除法)が用いられているが、常に環境的駆除法との並用を心がける必要がある。

(1)環境的駆除法 ねずみの生活条件を悪くするためには環境整備を行なわなければならない。

これには次のことが基本となる。

なる。

ア.餌になる物を与えない。
イ.巢の材料を与えない。

ウ.通路を遮断する(防そ構造)

(2)機械的駆除法 金網式捕そ籠、バチンコ、シャーマントラップ(ハツカネズミ専用)粘着シート等を用いて直接捕える方法であるが、この方法だけでは不完全である。他に超音波を利用してねずみを追い出す器具も各種市販されている。

(3)化学的駆除法(殺そ剤による駆除法) 表2

下記の他に忌避剤としてシクロヘキシイミドがあり忌避効果がある。

表2

殺そ剤	作用機	剤型	対象
慢性 殺そ剤 フロリンホ ワルファリン ブマリン エンドロサイド	悪性性の血液凝固阻止作用を持っており、過日少量づつ投与することによりねずみがあだかも自然死に近い死に至る。興奮やけいれんを来さないのがこの殺そ剤の最大の利点である。	毒餌 (散粉)	ドブネズミ タマネズミ ハブカネズミ
急性 殺そ剤 シリロネード	かなり速効性で、運動麻痺にいたるまでの時間が短い。ねずみによっては忌避性があり問題が残る。	毒餌 散粉 (散粉)	ドブネズミ タマネズミ ハブカネズミ
急性 殺そ剤 ノルホアルブイド	中毒作用が極めて早く、早いもので20分後、大多數は1時間以内に死に至る。ドブネズミに特異的に効力を示し、他の動物に対して致死量は極めて大きく安全である。	毒餌 ペースト	ドブネズミ タマネズミ

(4)生物的駆除法 ねずみの天敵を利用して駆除する方法であるが、家ねずみの駆除には効果がない。